

## 【協議事項 2】

### 小児医療体制検討部会における審議状況等の報告について

#### (部会設置運営要綱第6条)

～新型コロナウイルス感染症の第七波を踏まえた小児医療における第八波への対応について～

- 1 新型コロナウイルス感染症 第七波における小児の感染・入院状況 . . . . . 資料 3 - 1
- 2 新型コロナウイルス感染症 第七波を踏まえた小児医療の課題と方向性 . . . . . 資料 3 - 2
- 3 新型コロナウイルス感染症に感染した小児患者の療養の流れ (イメージ) . . . . . 資料 3 - 3

＜参考資料＞

- 新型コロナウイルスに対する大阪府の主な対応 (小児関係)

# 新型コロナウイルス感染症 第七波における小児の感染・入院状況

## 資料3 - 1 (小児部会：資料1 - 1 抜粋)

### 年齢層別 新規陽性者数

- 第七波（67日間）では、第六波（129日間）を超えるペースで感染が急拡大。
- 10歳代未満の新規感染者は、新規感染者数全体の約1/4を占める（表1）。

一部の小児科病院・診療所に患者が集中し、外来が逼迫。

### 小児 入院患者数

- 年齢別でみた場合、現時点でワクチン接種対象外となる0歳～4歳が、小児入院総数(1,060人)の59.8%(634人)を占める（表2）。
  - 14歳以下の新規陽性者に占める入院率は、0.66%(重症病床に限定すると0.05%)。
  - 受入れの多い上位10医療機関で、小児入患者全体の77.6%(823人)を占める（表3）。
- ※入院患者のうち95.5%(1,012人)は小児中核病院・小児地域医療センターに入院。

小児新型コロナ患者は、軽症・中等症病床への入院が中心。重症病床は極めて少ない。入院先として小児中核病院・小児地域医療センターが中心的役割。

### 小児救急 搬送困難件数

- 7月中旬以降、搬送困難件数が増加傾向を示し、7月24日には最大となる32件を記録。
- 8月以降は、2～4件程度で推移（医療機関の休診が多いお盆期間中も同様に推移）。

患者急増により搬送困難事例が発生（現在は小康状態）。

■表1：年齢別新規陽性者数(第六波と第七波)

年齢層	第六波(R3.12.17~R4.6.24)		第七波(R4.6.25~R4.8.31)	
	新規陽性者数	新規陽性者数に占める割合	新規陽性者数	新規陽性者数に占める割合
10歳未満	120,222	15.0%	99,453	10.9%
10歳代	129,471	16.2%	122,202	13.4%
20~30歳代	256,059	32.0%	290,904	31.8%
40~50歳代	193,884	24.2%	259,642	28.4%
60歳代以上	100,111	12.5%	140,406	15.4%
調査中	1,185	0.1%	855	0.1%
合計	800,932	-	913,462	-

※大阪府取りまとめ

■表2：年齢別入院患者数(R4.6.25~8.31)

年齢	軽症 中等症 病床	重症 病床	合計	年齢	軽症 中等症 病床	重症 病床	合計
	0歳	286	19		305	8歳	44
1歳	121	17	138	9歳	42	2	44
2歳	84	6	90	10歳	51	2	53
3歳	41	2	43	11歳	31	0	31
4歳	53	5	58	12歳	30	1	31
5歳	39	1	40	13歳	34	4	38
6歳	41	7	48	14歳	28	5	33
7歳	55	7	62	合計	980	80	1,060

※大阪府転退院サポートセンターによる聞き取りによる。小児中核病院・小児地域医療センター以外の医療機関に入院した小児患者を含む。

■表3：入院受入れが多い医療機関(R4.6.25~8.31)

医療機関名	種類	第七波受入れ実績（受入患者数順）			
		軽症 中等症	重症	合計	うち 入院FC 経由
大阪母子医療センター	小児中核	139	54	193	66
市立ひらかた病院	小児地域医療C	121	0	121	19
堺市立総合医療センター	小児地域医療C	99	2	101	3
大阪旭こども病院	小児地域医療C	91	0	91	30
市立東大阪医療センター	小児地域医療C	67	0	67	11
愛仁会高槻病院	小児地域医療C	61	0	61	10
大阪市立総合医療センター	小児中核	59	2	61	21
市立豊中病院	小児地域医療C	50	0	50	34
大阪はびきの医療センター	小児地域医療C	42	0	42	5
P L 病院	小児地域医療C	36	0	36	8
：	：	：	：	：	：
合計（受入れが多い10医療機関）		765	58	823	207
合計		980	80	1,060	259

※大阪府入院フォローアップセンター取りまとめ

## 実施した2回の調査を踏まえた分析（医療機関の機能ごと）

※小児地域医療センターに指定された市立病院は、小児地域医療センターに含む。

**小児中核病院** ●受診者総数に占める新型コロナ陽性者の割合は低いが、新型コロナにより入院適応者と診断された患者の割合が高い。

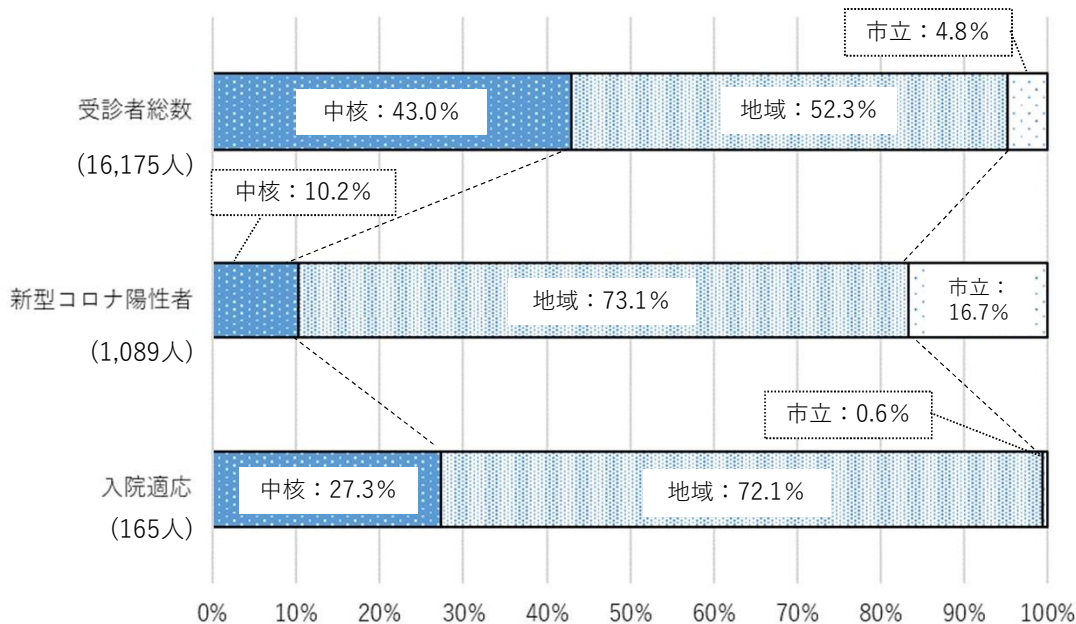
**小児地域医療C** ●小児中核病院や市町村立病院と比較し、受診者数や新型コロナ陽性患者数など全てにおいて高い割合。

**市立病院** ●受診者数に占める新型コロナ陽性者の割合が高いが、新型コロナにより入院適応と診断された患者はほぼない。

**▶小児地域医療センターが、症状の軽重を問わず小児の新型コロナ患者を受け入れた一方で、小児中核病院では入院を要する患者を、市町村立病院では症状の軽い患者を受け入れたと推測される。**

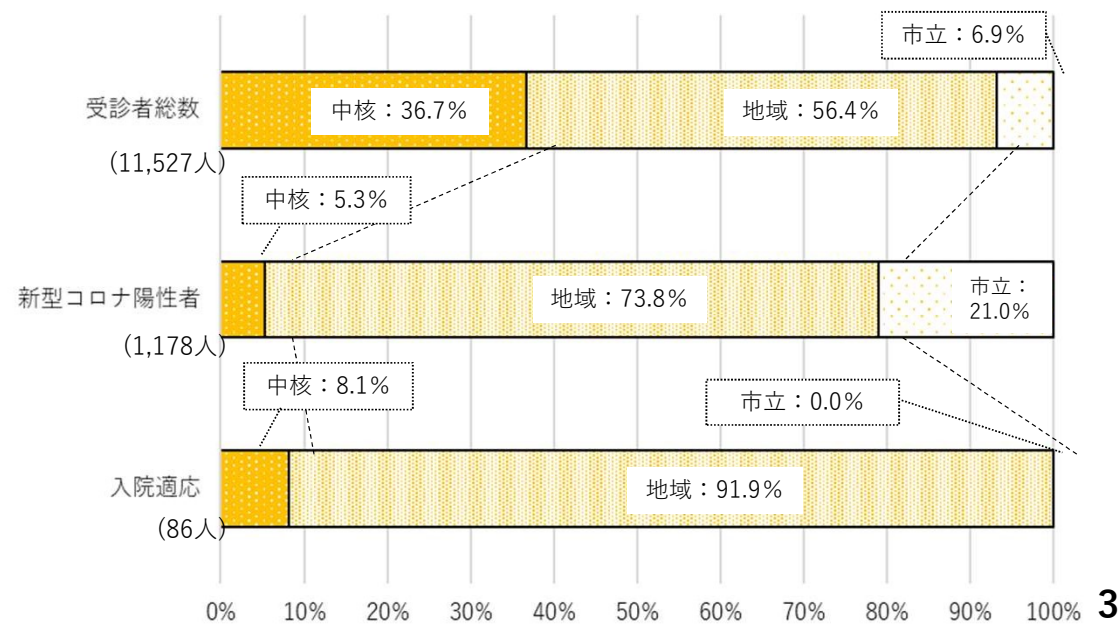
■ 1回目調査（調査対象期間：7/23～7/31 回答：34医療機関）

回答内訳(対象数)…小児中核(8)：8、小児地域(20)：17、市町村(10)：4



■ 2回目調査（調査対象期間：8/11～8/16 回答：29医療機関）

回答内訳(対象数)…小児中核(8)：7、小児地域(20)：19、市町村(10)：8



検討が必要な課題

方向性

① 外来患者の急増に伴う医療体制の逼迫

【背景等】  
 ・新型コロナウイルス感染症以外の感染症（RSウイルス等）の同時流行。  
 ・保育所や幼稚園への登園証明書発行のための受診。  
 ・小児に対する新型ワクチン接種率の低さ。  
 ・今冬に予想されるインフルエンザとの同時流行への対応。

- 診療・検査医療機関の拡充  
 …現在「小児」等の名称がある医療機関：200医療機関⇒拡充を依頼
- 発熱外来等の体制整備  
 …感染急拡大時、発熱外来の受診対象重点化と休日診療所等への発熱外来実施を要請(第81回新型コロナウイルス対策本部会議)
- オンライン診療・往診等の療養支援体制の強化
- 抗原定性検査キットの配布（10歳以上・軽症）  
 …R4.8 若年軽症者（20～49歳）の重症化リスクのない者を対象に開始。  
 →R4.9下旬 10～64歳の症状が軽い者を対象に切り替え
- 保育園や幼稚園に対し登園証明書等の発行を求めないことの周知  
 …R4.8及びR4.9 所管部局において通知済
- 小児への新型コロナワクチンの接種勧奨  
 …府では随時呼びかけを実施、R4.8 日本小児科学会においても推奨

② 感染規模が拡大すると予想される第八波に備えた新型コロナウイルスに感染した小児患者の入院受入れ

【背景等】  
 ・小児患者に対する入院基準がないため、入院適応の判断は、診断した医師が、患者の症状や基礎疾患の有無などを総合的に踏まえ判断。  
 ・今冬に予想されるインフルエンザとの同時流行への対応。

- 医療圏内にある「小児地域医療センター」を中心とした新型コロナウイルスに係る小児医療体制の構築
- 小児コロナ病床の運用



## 小児医療体制検討部会でご議論・ご意見をいただきたい内容

### 項目

### ご議論・ご意見をいただきたいポイント

- ①発熱等を訴える外来患者の急増に備えた外来診療体制  
(外来負担の軽減と本来、医師の診察を必要とする患者への医療の提供)

- インフルエンザ流行期における外来診療の体制

→インフルエンザワクチンの接種勧奨

→発熱患者に対する診療体制 (特に診療・検査医療機関以外)

【インフルエンザ流行期 (12月～2月) における新型コロナ及びインフルエンザ小児患者数 (推計)】

※R4.3.2 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード 野田先生提出資料などをもとに府独自試算

	1日・1施設あたり「患者」数						1日・1施設あたり「受診者」数			
	新型コロナウイルス		インフルエンザ				新型コロナウイルス+インフルエンザ			
	診療・検査医療機関		診療・検査医療機関		左記以外		診療・検査医療機関		左記以外	
	小児科病院	小児科診療所	小児科病院	小児科診療所	小児科病院	小児科診療所	小児科病院	小児科診療所	小児科病院	小児科診療所
合計	6	9	8	12	0	0	14+α	21+α	0	0

- ・診療・検査医療機関数：小児科病院103施設、小児科診療所(名称に小児・こども・キッズのいずれか含む) 205施設 (大阪府地域保健課調べ)
- ・病院と診療所の受診者比率(NDBデータ・H29.4～H30.3の外来患者延受診者数)：病院25%、診療所75%
- ・インフルエンザ流行期：直近3シーズン平均で、1定点あたり「10」以上の期間(12月下旬～3月上旬の10週間70日)
- ・新型コロナウイルス1日あたり患者数：第七波(R4.6.25～8.31：68日間)の陽性者数をもとに算出
- ・インフルエンザ1日あたり患者数：直近3シーズンの患者数(概数)をもとに算出した年齢別患者率を府の年齢別人口に乘じ年間患者数を算出。その後、年間患者数に流行期間が占める患者割合を乗じ、流行期の患者数を算出。さらに、流行期の患者数に流行期間(70日間)を除して算出

- 抗原定性検査キットを使った自己による検体採取を可能とする年齢

→患者急増時における運用方法

- ②第八波の感染規模の拡大に備えた新型コロナウイルスに感染した小児患者の入院受入れ

- 圏域内にある小児地域医療センターの役割付与

→圏域内にある診療・検査医療機関の医師が患者の病状等から入院加療の緊急性が高い患者を積極的に受入れ (従来の保健所を通じた入院調整とは別ルートを新たに設ける) といった役割の付与

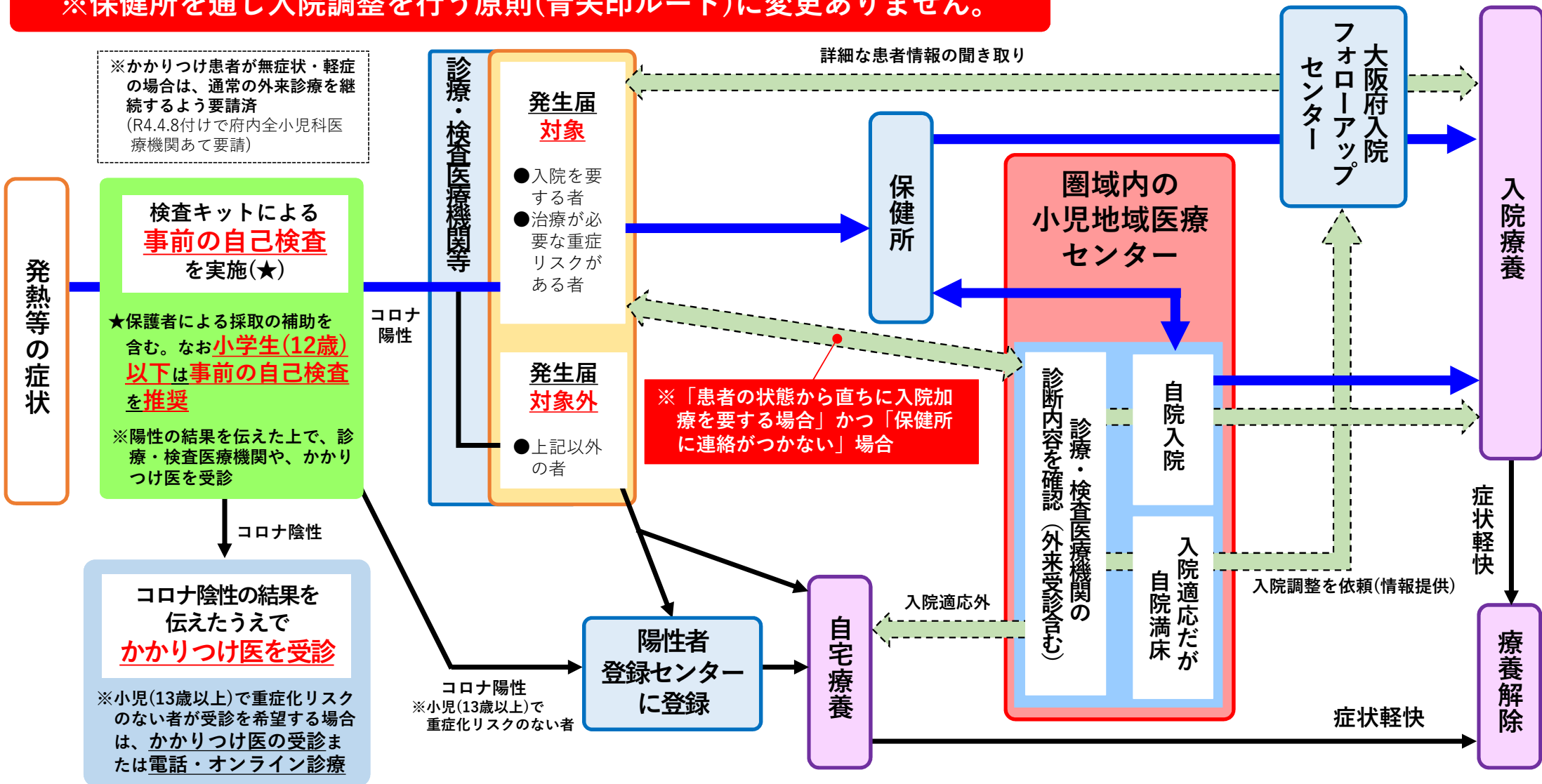
⇔小児中核病院は、引き続き府域全域を対象に重症患者を受入れ。

# 新型コロナウイルス感染症に感染した小児患者の療養の流れ（イメージ）

資料 3 - 3 (小児部会：資料 1 - 4 改)

※保健所を通じ入院調整を行う原則(青矢印ルート)に変更ありません。

※点線矢印：新たに追加した入院調整ルート（例外的取扱い）



### 1. 特措法第24条第9項による要請

#### ●陽性のかかりつけ患者が無症状・軽症の場合は、コロナ初期治療と併せて通常の外来診療を継続【R4.4.8】

<要請先> 診療所を含む府内小児科医療機関

<要請内容> 医療機関のかかりつけ患者が陽性となった場合も、無症状・軽症であれば、原則、貴機関において、コロナ初期治療と併せて通常の外来診療の継続。

#### ●軽症中等症病床のフェーズ5以上において、小児病床2床以上の追加確保【R4.7.21】

<要請先> 小児中核病院、小児地域医療センター

<要請内容> フェーズ5における軽症中等症病床のうち、2床以上を新たに小児患者受入病床とする。

#### ●発熱等の新型コロナウイルス感染症が疑われる小児患者の時間外診療実施【R4.7.28】

<要請先> 小児中核病院、小児地域医療センター、小児科関係の救急告示医療機関

<要請内容> ①発熱等により新型コロナウイルス感染症が疑われる小児患者についての受診相談があった際には、診療時間外であっても積極的に当該小児患者の診療を行う。

②受診した小児患者の新型コロナウイルス感染症の要請が判明した場合は、原則、受診医療機関にてコロナ初期治療を実施。

#### ●お盆期間中(8.11～17)における発熱等の新型コロナウイルス感染症が疑われる小児患者の夜間休日診療の拡充等【R4.8.9】

<要請先> 小児中核病院、小児地域医療センター、市町村立病院

<要請内容> ①発熱外来を設置していない医療機関においては、お盆期間中（8月11日～17日）における発熱等により新型コロナウイルス感染症が疑われる小児患者に対する発熱外来の新規設置

②お盆期間中における発熱等により新型コロナウイルス感染症が疑われる小児患者に対する夜間休日診療の拡充。

## 新型コロナウイルスに対する大阪府の主な対応（小児関係）

### 2. 医療機関対象の説明会・調査の実施

#### ●新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う小児医療の現状に関する説明会【R4.7.28開催】

<対象医療機関> 小児中核病院、小児地域医療センター、小児科関係の救急告示医療機関

<主な内容> 対象医療機関向けに発出予定の要請や小児の感染状況などを説明（説明会后、要請を発出）。

#### ●新型コロナウイルス感染症の小児患者受入れ等に係る調査について【R4.8.2～5実施】

<対象医療機関> 小児中核病院、小児地域医療センター、市町村立病院

<主な内容> 7月23日から31日までの間における新型コロナウイルスに感染した小児患者への対応や、  
（仮称）発熱拠点外来を設置した場合の協力等を確認するため調査を実施

**▶調査結果を踏まえ、お盆期間中（8.11～17）における発熱等の新型コロナウイルス感染症が疑われる  
小児患者の夜間休日診療の拡充等を要請。**

#### ●お盆期間中における小児患者受入れに係る調査について【R4.8.23～31実施】

<対象医療機関> 小児中核病院、小児地域医療センター、市町村立病院

<主な内容> お盆期間中（8月11日～16日）における小児患者の外来・救急・ウォークインでの受入状況や  
受診患者で入院適応となった人数などを調査。